多剤併用患者の減薬への取り組み　第3報

～薬剤総合評価調整加算を算定した患者の退院後調査～

小関 剛[1)]　山下 雄介[1)]　関口 浩之[1)]　中根 丈晴[1)]　美原 盤[2)]

1)公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 薬剤部

2)公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]多剤併用は高齢者医療の大きな課題である。当院では入院患者に対して積極的な処方薬削減に取り組んできたが、退院後のフォローは十分ではなかった。今回、入院歴のある患者に対し退院後の服用薬剤状況について調査した。

[方法]薬剤総合評価調整加算を算定した患者104名で調査協力の同意を得られた45名を対象に、現在の服用薬剤種数、服薬状況に関して電話調査を実施した。

[結果]対象者の60%において退院時から服用薬剤種数が増えており、その90%は減薬された薬剤であった。薬剤種が増えた例と増えなかった例で、受診医療機関数、服薬管理者、残薬状況に明らかな差はなかった。

[結語]入院中減薬した患者が退院後に増薬されていることは少なくない。退院後も減薬を維持するためには、入院時の多剤併用の状況、減薬実施内容を退院後の受診医療機関、調剤薬局など関係者と情報共有することが重要と思われる。